

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2670900501		
法人名	社会福祉法人 洛和福祉会		
事業所名	洛和グループホーム醍醐新町		
所在地	京都市伏見区醍醐新町裏町24-4		
自己評価作成日	平成22年9月18日	評価結果市町村受理日	平成23年1月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670900501&amp;SCD=320">http://kohyo.kyoshakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2670900501&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成22年10月29日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム醍醐新町は民家改修型のホームです。ホーム内は至るところに段差があり、一見生活しにくそうではありますが、毎日の生活の中でよい意味で両下肢を鍛える役割となっています。住宅を改修していますのでアットホームな雰囲気の中、家事や買い物、散歩など日常と変わらない生活を送っています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員が検討して作り上げたホームの理念に基づいた日々の支援が確立されています。利用者に合わせた生活の支援を念頭に、地域で生き生きと生活が出来るよう町内会の様々な行事に参加したり、利用者の要望に沿った食事の準備を行うなど、家族とともに利用者を支える視点を持って支援を展開しています。年2回法人全体で行う利用者アンケートはホーム毎に結果を分析し、事業所だけの力ではなく家族とともに出来ることを提案するなど工夫を凝らしています。支援内容を家族にもわかりやすく明確に伝える介護チェックシートや、ケアプラン作成の希望や要望の記入シートなどを作成し、利用者や家族の思いの把握に努め利用者本位の支援を展開しています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念をもとに「明るい生活、地域で生き生き、健康で安心した生活」の3項目をホーム理念としています	法人の理念をもとにホーム理念に3つの項目を掲げ、日々のケアに当たっている。健康で元気であることで利用者に明るい生活を、地域の関わりの維持継続によって安定した暮らしをと、掲げた項目に沿った実践を心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地蔵盆や区民運動会などに参加し地域と交流している。また、散歩や買い物など日常的に挨拶等行い一員として生活している	自治会に加入し、祭りや運動会などの行事に参加している。地域の方々には行事等で援助を頂く機会も多く、ホームでは回覧板などで利用者の様子や行事の報告をするなど、ホームが地域に溶け込んだ関わりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、地域の方にお話したり、相談などがあればいつでもお声かけ下さいなど伝えている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	サービスの実際などの報告や相談など、意見等を聞きサービスの向上に活かしている	運営推進会議には毎回全家族に参加への声をかけ開催し、会議後には議事録を送り内容を伝えている。会議ではホームの行事や状況の報告を行い、町会長や地域包括支援センター職員からは、情報や地域の行事の案内などがあり、2ヶ月に一度行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村に出向いたりしているが運営推進会議等の参加はしてもらえていない	行政の窓口にはホーム便りや運営推進会議の議事録を届け、ホーム理解に努めている。機会があれば利用者と市の窓口に出向いたり、相談事があれば電話などで連絡し、より良い関係作りに向けて努力をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	洛和会全体での勉強会や、日々のケアでも身体拘束は行わないを基本としケアしている。玄関が二カ所ありますが、表玄関は夜間のみ施錠、裏玄関は日常は施錠している。(基本出入りしない・防犯予防のため)	研修機会を多く持ち、身体拘束への理解を深めるとともに、職員間で互いに拘束に繋がるような声かけにならないよう注意合っている。玄関の施錠などについては表玄関は夜間以外は施錠せず、いつでも利用者の思いに沿うように、出かけた様子があれば一緒に出かけるなど対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についても勉強会があり、それ通じて学ぶ機会をもち、カンファレンスでも話し合う機会を設けたりしており、見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		

洛和グループホーム醍醐新町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を話し合い、活用できるよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に十分な説明を行い、理解・納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の面会時にさりげない会話から意見を聞いたり、1年に2回アンケートをしたりしている。玄関にボックスを設けている	運営推進会議への出席時に意見を聞いたり、法人全体で実施する利用者アンケートで意見の収集に努めている。出された意見はホーム毎に分析するとともに具体的な対応結果の報告を行っている。また、家族の来訪時にはリビングに足を運んでもらい利用者の日々の暮らしを見て頂き、意見や要望が出やすいように配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の関わりの中から聞いたり、カンファレンスなどで話し合う機会を設けており、なるべく反映させている	月一度の職員会議や日々の申し送り時には、活発な意見交換が行われている。担当者を決め行事や研修を企画から行い、職員の希望や提案を運営に反映する機会となるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	アンケートや自己評価表などで職員のやりがいや状況など把握し、面接の機会を持つたりして向上心を持って働けるよう努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修が充実しており年間計画を立てて参加できるよう支援している。研修記録を管理し、参加できなかった職員にも伝達研修などしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人での交流会や会議など通じて質の向上を目指したり、グループホーム協議会へ参加で情報交換を行い、勉強会や交流会を通じて相互訪問等行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族に事前にお聞きし、安心して生活してもらえるような関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様、家族に事前にお話を聞き不安や要望などに耳を傾けながら、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他事業所とも連携を取り、必要としている支援を見極めて対応している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や食事作りなど出来る限り共に行い、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限り面会に来てもらえるよう声かけをしたり、行事への参加や、受診の同行など共に支えていく関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の面会や電話など、関係が途切れないよう支援している	友人や馴染みの人の来訪時には、一緒に話し合ったり昔の様子を伺う機会にすることで利用者に関する理解を深めている。電話や手紙などの支援で、今まで培われた利用者の生活が継続されるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立せずに関わり合い、助け支えあえるような支援に努めている		

洛和グループホーム醍醐新町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて本人や家族のフォローに勤め、相談員を交えながら相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式や日々の関わりの中から、希望や意向の把握に努め、常に本人の立場に立ち話し合い等行っている	利用開始時には利用者や家族の暮らしへの思いを聞き、入居後もコミュニケーションをとり、内容を記録に残し職員間で共有している。思いの表現の困難な方には、職員で表情や会話からカンファレンスで話し合い、把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の話などを通じて生活歴やなじみの暮らしなどの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式や日々の関わり、介護記録などから一人ひとりの現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がよりよく暮らせるために、カンファレンス等で話し合いをしたり、本人や家族などからも意見を聞き、現状に即したケアプランとなるよう努力している	家族や利用者の要望を直接用紙に記入頂き、カンファレンスを行いケアプランを作成している。日々の支援に対して、絶えずプランに立ち回り要望に対応するよう検討している。短期目標を3か月とし、長期の見直しを6か月としているが状況の変化があれば、随時の見直しを行っている。また、必要に応じて医師や看護師のアドバイスなども反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に記入し、変化等あれば申し送りなど行い、ADLの変化や急変などがあればカンファレンスを行い、情報の共有に努めケアプランの見直しなど行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族に代わって通院介助や買い物、訪問美容、訪問看護、訪問歯科など利用者の希望により利用されている。また、近隣の美容院にも希望があれば、行けるようにしている		

洛和グループホーム醍醐新町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の運動会や町内会の地蔵盆への参加などを通じ地域との交流は盛であり、近隣の特別養護老人ホームとも交流しお花見等協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば専門医にかかってもらう、または往診医と協力し適切な医療が受けられるよう支援している。月に2回は往診があり、24時間体制で支えている	入居時に希望を聞き、かかりつけ医を決めている。協力医からは年に一度健康診断があり、希望者には月二回の往診がある。何かあれば24時間の対応が可能で安心の医療体制が築かれている。歯科医からの往診もあり、希望に応じている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回の訪問看護師によるチェックや、急変に備えて24時間体制で適切な受診や看護が受けられるよう支援している。何かあれば往診医にも連絡し連携に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	グループホームと病院の相談員を軸に早期退院が出来るよう、情報の共有や、こちら側からも状態把握のために、病院へ様子を見に行ったりして関係作りを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルにつての指針やあり方について話し合いを行い、事業所で出来ることなどを十分に話し合いを行っているが、家族が避けることもありなかなか上手く伝わっていないこともあると思える。	法人としての看取り指針があり、入居時に家族に説明し同意を得ている。看取り指針に沿った流れや、重度化する過程で医師の意見や家族の意向などを聞き合いの共有に努めている。法人の研修などで知識を深めるとともに、重度化した利用者の対応等について話し合う機会を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救急救命講習があり全職員が対応できるように受講している。もしもの場合に備えて日々に話し合いの中からイメージトレーニングしたりもしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	二ヶ月に一度の消防訓練や、年に一度の消防署との合同の訓練を行っている。地域には運営推進会議にて声かけしている	年に一度消防署の立ち会いのもとに消火訓練を行うとともに、ホーム独自で昼夜想定で2ヶ月に一度避難訓練を行っている。運営推進会議や地域への声かけを行い協力を依頼している。	

洛和グループホーム醍醐新町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない声かけや対応に気をつけている。職員間での気付きがあればアドバイス・注意など行い意識向上にも努めている	日々の関わりの中で職員に不適切な発言がある場合には、管理者が直接注意をしている。また、カンファレンス時に利用者を敬う姿勢を基本とすることを話し合っている。入浴やトイレ誘導時にもプライバシーを損ねないような対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関わりや以前の習慣などから、希望を確認したり、自己決定できるように働きかけている。自己決定が困難な方には家族に聞いたりしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、本人の立場に立った対応を心がけ、声かけして希望に添えるよう努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服など本人と選んだり、お化粧を声かけしたり、ハンドクリーム・化粧水・ボディクリーム・マニキュアなどおしゃれが提供できるようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを共に考え、調理準備から配膳を行ったり、食材運びなど一人ひとりの好みや力を活かしながら楽しみなものになるよう努めている	献立は冷蔵庫を見たり利用者の意見を聞き、栄養面にも気をつけながら決めている。出来るだけ利用者の出来ることに依拠しつつ作っている。食事は職員とともに出来栄を語ったりしながら食卓を囲んでいる。また、誕生日には利用者の好きなものを聞き作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	往診医や家族等と相談して食事やおやつ摂取量など、栄養バランス、水分量の確保に努めている。食事形態もADLに合わせて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや歯磨きの声かけや介助を行っており、1年に一度の無料検診や、一週間に1度の訪問歯科などを利用し清潔保持に努めている		

洛和グループホーム醍醐新町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを理解し2～3時間のトイレ誘導や、食事前の声かけ、夜間の声かけ等で失敗のないよう支援している	排泄チェック表を作り個々に合った声かけを行い、自立の方はそっと見守り誘導を行うなど、自立の継続への支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事には食物繊維を多く取り、果物や乳製品なども積極的に摂取している。また、毎朝10時の体操や、適度な運動や買い物などを取り入れ座りっぱなしに鳴らないよう予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本毎日入浴可能であるが、前日に入浴できていない方を優先している。その際には一声かけ納得のうえ介助を行っている	利用者の希望に沿って入浴の支援を行うようにしている。現在は午後からの入浴がほとんどであるが、今までには夜の入浴の支援を行ったこともある。利用者の希望を聞きながら入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や状態に合わせて、休息したり安眠出来るよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法や用量について理解しており、副作用については、往診医や訪問看護師などからも説明や助言を受けている。服用の際には手のひらに出し確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中から役割を持ち、ビールなどの嗜好品やカラオケなどの楽しみや気分転換等の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	カラオケや喫茶店などまたは行事など、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など日々出かけるように支援している。、毎月何か行事を企画し、花見や紅葉を見に出かけたり、喫茶店やカラオケで楽しんだり、利用者の希望の実現に努めている。遠出の時などでは家族も参加され楽しみ事となっている。	



洛和グループホーム醍醐新町

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はホームで管理しているが、必要に応じて家族と相談し、お金を持っている方もいる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などやり取りできるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るく光が差し込みますが、直接当たらないようレースのカーテンで調節しています。季節の花を生けられたり全員で作った作品や、行事での写真、新聞などが飾られている。室内など段差があるが色でわかるよう工夫し、筋力低下の防止と位置づけています	民家を改修した住まいでアットホームな雰囲気作りをしている。目の前で料理が作られ音や香りを楽しんだり、裏の玄関に椅子を配置し、外の様子を眺めることができる空間を作っている。毎週法人のアートセラピーの訪問があり、さまざまな作品が作られ、季節が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室にはソファを置き、ゆっくり過ごせる空間となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や鏡台、または仏壇などもってきてもらい、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には使い慣れたものを持参されるように声かけを行っている。ほとんどの居室は和室で畳が敷かれおり、好みや状況で布団やベッドでの生活が選ばれている。人形や椅子、写真など利用者にとっての安心の品が配置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	センター方式を通して出来ること・出来ないことの把握や日々のケアの中でアセスメントし、安全に自立した生活が送れるよう工夫している		